

CONTENTS

ワンステップ, 上をめざして	1
今年度の研究を振り返って	2
研究会レポート: 「第4回ICT活用授業研究会を終えて」	3
学習紹介: 「ようこそ! 本の世界へ~『毎日読書』の取り組み」	4
学習紹介: 「生命の不思議や神秘性を感じるために! ~メダカの誕生」	5
学習紹介: 「美術館での鑑賞学習/ならべて あつめて おきにいり」	6
特集1: 「学校図書館活性化事業~あまんきみこ先生をお迎えして」	7
特集2: 「大阪フィルを迎えて~文化庁・本物の舞台芸術体験事業」	8

学びの質の高まりをめざして

~課題に向かう
対話を深める~

ワンステップ, 上をめざして

和歌山大学教育学部附属小学校 副校長 北原 博男



本年度も、「複式授業研究会(6月)」「夏季教科領域等研修会(7月)」「教育研究発表会(10月)」「ICT活用授業研究会(1月)」と合わせて4回の研究会を行いました。全国各地から2100人あまりもの先生方のご参加をいただき、有意義な会を開催できましたこと、深く感謝申し上げます。

夏季教科領域別研修会の全体会では新しい試みとして、東京大学大学院教授、佐藤学先生・岡本和夫先生に、3年生の算数の提案授業を観て、『数学的な考えを育てる授業改革』というテーマで対談形式のご指導をいただきました。子ども達の育ちは褒めていただきましたが、指導者として子ども達がどう学んでいけるのか、見通しに甘さがあったのではと指摘を受けました。

また、教育研究発表会では東京大学大学院教授の秋田喜代美先生をお招きし、「新学習指導要領を超えて~学びの質を高める対話~」と題してご講演いただきました。秋田先生には、固有名で子どもが語り合っている育ちが見える学校・子どもの言葉の層に厚さがある・子どもがすでにもっている知識とつなげられているなど、お褒めの言葉をいただきました。その上で、言葉や考えが流れていないかを吟味することでもう一つ上の段階にという宿題をいただきました。ICT活用授業研究会では、横浜国立大学教育人間科学部准教授の野中陽一先生に、「附属の先生達は、日常的な使い方から教科や単元での特有の活用方法を見いだしている」と、本校が日常化の次のステップに進んでいると言っていたいただきました。

私たちは、ようやくグループやペアでの学習・ICT機器の活用などが日常的になされるようになったと感じています。来年度、ワンステップ上の「質の高い学び」めざし研究するために、これまでやってきたことを吟味して、きめ細かい指導をしていきたいと思っています。

今年度のサブテーマは、「課題に向かう対話を深める」でした。教師が教材の魅力として感じたことを、どうすれば子ども達が協同的な学びの中でつかんでいけるのか。子ども達がこの課題でどんなに学んでいけるのか。より子どもの側に立って課題について考え直すことで、しっかりと見通しをもつことが必要だと思います。指導に当たっては、子ども達の学習する様子を見て軌道修正していくことが大切です。子どもの学びという観点から、もっときめ細かく吟味していきたいと思います。

「学びの質の高まり」を支えるものとして、「仲間との温かい人間関係」や「学びを進めるための規律」、「学びに向かうとする意欲や態度」などの学習文化を創っていくことが大切です。本校の子ども達は、興味のある学習に対しては意欲的で能力的にも素晴らしいものをもっていますが、時として「けじめ」という面で気になることもあります。各学級・学年・学校の教育活動を通して、「けじめ」という観点から子ども達がどう育っているのかも吟味していきたいと思います。

来年度の教育研究発表会は平成22年10月30日(土)。秋田喜代美先生に引き続きご指導いただきます。よろしくご支援のほどお願い申し上げます。

今年度の研究を振り返って

学びの質の高まりをめざして ～ 課題に向かう対話を深める～

研究主任
中井 章博



【学びの質の高まりをめざして】

我々は、今年一年間「学びの質の高まりをめざして ～ 課題に向かう対話を深める～」という研究テーマのもと、研究を進めてきました。

自己の課題をもって対象と対話すること、協同的な学びにおいて他者と課題を共有することで焦点を絞った対話をする事、そして課題を設定した時点での自己と課題解決後の自己の変容を認識すること、さらに、それらの認識を更新していくことによって、学びの質が高まると考えてきました。ジャンプのある学習課題を設定し、子どもたちが自己の課題として位置づけ、対象・他者・自己との対話を深めることに挑戦してきたのです。

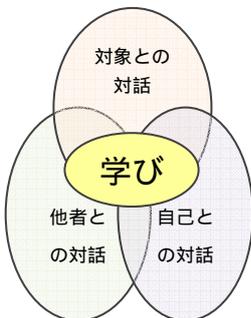
また、「学びの質の高まり」を支えるものとしては、「学級風土」を創ること、みとりと支援を積極的に行うこと、プロジェクト型学習を創ること、そして小グループによる協同的な学びを挙げてきました。2月の授業では、これらの支えるもの全てがうまく機能し、その重要性も再確認することができたのです。



協同的に主人公の内面を探る

【2月の教室から】

三位一体の対話



本校4年C組で国語科『かばんの中にかばんを入れて（安房直子作）』の授業を2度参観しました。私はそこで、豊かで確かな読み、受容的に聴き合う関わり、一人ひとりが自己の課題をもちながら主人公の内面の変化を協同的に探ろうとする子どもたちの姿を楽しく見ることができました。一年間学び続けてきた仲間と共に、今日も変わることなく営まれる対象・他者・自己との三位一体の対話は、教師の授業論や子どもの学力問題などといったものを超越し、穏やかに教室の中に響いていました。私は、今年度の研究の成果を確認しながらも、来年度に向けて、子どもたちがさらに学びの質を高めていくにはどのようにしていくべきなのかを考えながら、子どもたちが創造した「物語の続編」の世界に浸っていました。

【生きてはたらく力を】

我々が大切にしてきたものは、学びの過程における問題を考え続けようとする力や、そこで育まれる「創造的な思考力」や「豊かな表現力」「的確な判断力」といった主体的な能力です。21世紀の知識基盤社会を生き抜く子どもには、正しい価値判断や主体的・創造的な行動ができる資質や能力をもつことが望まれます。そのためには、対象の本質や価値、真理などの獲得という学びの結果得られるもの以上に、学びの過程が重視されなければなりません。課題に向かって、三位一体の対話を行う中で育まれる主体的な能力こそ、自分の身の回りにあるさまざまな問題を切り開いていくために必要だからです。さらに、先述のように、考え合い、探求し合う、協同的な学びをすすめることで「課題発見力」「課題解決力」についても育んできました。これらの力は、子どもたちがこれからも学び続け、生活していく上で、生きてはたらく力になると考えてきたのです。



生きてはたらく力

来年度も「学びの質の高まり」をめざし、研究に励んでいきたいと考えています。みなさまからのご意見やアンケートなども参考に、よりよい学びを創り、よりよい研究をめざします。

研究会 レポート

第4回 ICT活用授業研究会を終えて... みんなでつかおう!! ICT

ICT研究部主任
山中 昭岳



ICT活用授業研究会も今年で4回目となり、全国から約250名の先生方にご参会いただき開催できましたこと、厚くお礼申し上げます。また、野中陽一先生・豊田充崇先生に第1回から継続してご指導いただけましたことに深く感謝しております。

さて、本年度は「ICT活用の日常化」というテーマを掲げ、公開授業、ブースセッション、パネルディスカッションと大きく3つの流れで皆様に本校のICT活用の様子を発信しました。

【公開授業】



本校の研究主題である「学びの質の高まり」をめざし、効果的なICT活用について提案した授業を行いました。

研究会の流れ

ICT活用について知り

先生方のICT活用よりも児童の活用をみて驚きました。児童が前に出て発表する機会も多く学び合いが充実している様子が多くみられました。

学びに役立つ道具

【ブースセッション】



各学年において、日々の活用の様子について実際に事例を紹介したり、参会者の皆様に体験していただいたりと趣向を凝らし、ICTについて親んでもらいました。

ICTに親しみ

具体的にさわったり、みたりできて新しい発見がいくつもありません。

お互いに情報交換

【パネルディスカッション】



実践と環境整備の両輪が必要です。実物投影机で大きく見せるということに関しても何をみせるのか、どこでみせるのかが大切であり、そして教室にICT機器の常設が必須条件です。

ICT活用について深め

苦しければ日常化できないと思います。楽しく、そして楽に手をぬければ日常化できると思います。そうすれば本当に大切なところに力を入れられます。

講師先生からの助言

ICT活用の
日常化へ

生命の不思議や神秘性を感じるために！
メダカの誕生～生命の神秘をさぐる～ の単元より

理科
5年B組担任
馬場 敦義



生命の文脈をさぐる

5年生理科の「動物の誕生」では、観察しやすいこともありメダカを飼育することが多いです。しかし、生活科で学んだり、お家で飼育したりしてはいますが、生物を観察することが十分にできない子どもたちがいます。やはり、子どもたちには、生き物が存在することの自然の文脈（筋道や背景）を読み解き、生命の誕生の不思議や神秘性に触れてほしいと考えています。そのためには、魚に親しみを持ちながら飼育と観察を行う中心にした単元構成にしました。具体的には、子どもたち一人一人がメダカを飼うことや、2人に1つ顕微鏡を貸し与えるなどの手立てをとりました。そして、子どもたちの思いや考えをイメージマップで共有していきました。

親しみをもってメダカに関わる手立て

レディネスより

知識・理解の把握 A

- ①メダカにえさをやり続けると、コイみたいに大きくなるぞ
- ②メダカにオス・メスの区別なんて、あるはずがないよ
- ③モンシロチョウみたいで、メダカもたまごを産んだらすぐに死んでしまう
- ④おなかの大きなメダカのおしりから、メダカの赤ちゃんが出てくるんだ
- ⑤メスのメダカばかりかえば、赤ちゃんがたくさん生まれると思うわ
- ⑥メダカたまごは、丸くて平べったい形をしているよ

⑦産まれたばかりのたまごには、小さなメダカが入っているよ

- ⑧生まれたばかりのメダカの赤ちゃんにも、すぐにえさをあげなくちゃ
- ⑨メダカの赤ちゃんは、こん虫みたいにだっぴして大きくなるんだ

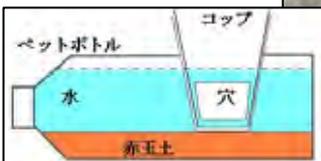
⑩池のメダカは、何もえさをあげないのに、どうして死なないのかな

子どもたちの実態を知る

学習指導要領で示された【ア、魚には雌雄があり、生まれた卵は日がつにつれて中の様子変化してかえること。イ、魚は、水中の小さな生物を食べ物にして生きていること。】と子どもたちの知識理解があいまいである項目とが一致していることが分かりました。

メダカと深くかかわるために

一人一人がメダカを飼うことで、目の前のメダカについて真剣に考えることができました。自分の飼っているメダカが卵を産み、元気に成長する手立てを必死に考えていました。また、中学校からもらった顕微鏡を2人に1台与えることで、観察してスケッチする時間を十分に確保することができ、丁寧な観察につながりました。



コップに入れ、取り出してメダカを観察



イメージマップで、思いや考えを共有

イメージマップを使うことで、子どもたち同士でお互いの考えを共有することができました。また、自分の考えを表出することにより、考えの変容を認識することができました。

チャック付きビニール袋で、卵を観察



自然の文脈を読み解いていくためには、対象と深くかかわることが必須条件です。これからも対象と深くかかわることからはじめる理科学習をすすめていきたいです。

美術館での鑑賞学習

ならべて あつめて おきにいい
 ~びじゅつかんにいこう~

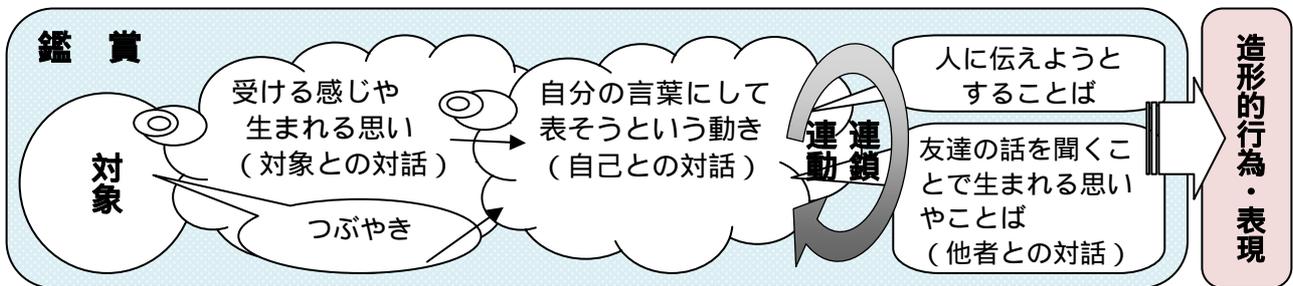
図画工作科
 1年C組担任
 西井 恵美子



今、学習指導要領において「鑑賞」の指導充実があげられていること、文化庁「美術館・博物館活動基盤整備支援事業」で取り組みが推進されていること等から、美術館における鑑賞学習が注目されている。そんな中、本校は和歌山県立近代美術館と敷地が隣接しており、徒歩5分程度で行き来できる好条件の立地である。そこで、感受と言語のかかわりを大切にしながら美術館での学習に取り組んだ。

感受と言語のかかわり

造形的な表現を軸とする図画工作科においても、言葉はその表現を支えるものである。例えば、対象との対話によって生まれる言葉、自己との対話から生まれる言葉、他者との対話によって生まれてくる言葉...等いろいろなものがある。それらは感じること(感受)と言語に表すこと(言語)を行き来して連鎖・連動しながら生まれる鑑賞の学習における大切な学びである。[下図参照]



『自宅から美術館へ～田中恒子コレクション展～』の鑑賞における子どもの姿 【PixCell-Sheep (名和晃平) の鑑賞】

「きらきらしてる」「かわいい」等といった観たままに表す言葉から、自然と「重そう」「つくりにくそう」といった質感や作品の詳細に触れる発言につながり、気づきや思いが膨らんでいった。「中に本当の羊が入ってるよ」という一人の子どもの言葉から、子どもたちは思わずそれを確かめようと作品に近づいた。びっしりと透明のビーズで覆われている形のずっと奥に本当の羊がいることをどの子の瞳も探し出そうとしていた。まさに本物の美術作品との対話であった。



【アートコレクター田中恒子さんとの出会い】



展覧会出品者である、アートコレクター田中恒子さんにご協力をお願いし、学習の中で登場して頂いた。作品の詳しい話や作家のエピソード等を伝えることは教師にもできる。しかしコレクター本人から聞かせてもらう力はとても大きい。子どもたちは、これまで観てきた作品が 目の前にいる人のもの という新たな見方を持って向き合い、「どうしてこの作品を欲しいと思ったのか」「家のどこにおいていたのか」など積極的に質問したり、その答えにじっと聞き入ったりして作品にまなざしを向けていた。美術作品同様、コレクターご本人と出会うことで、さらに美術作品との心の距離を縮められた瞬間であった。

美術館での学習の意義

実践を通して、感じたことを言葉にすることで確かとなる気づき、互いに伝え合うことで深まる思いのひろがりを感じられた。本物に触れる鑑賞経験を積み重ねることは、子どもの感性を磨き、表現の力を育てることにつながると考えている。今後も引き続き取り組んでいきたいと思う。

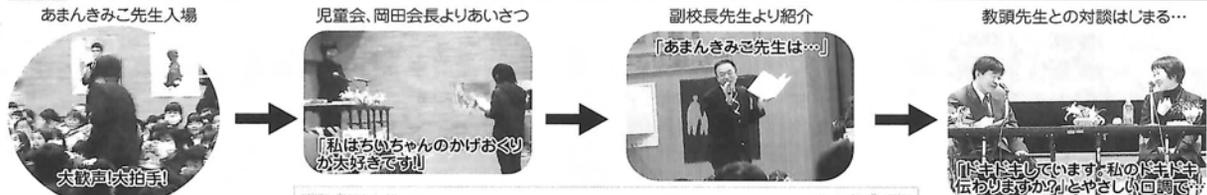
学校図書館活性化事業

11/17

あまんきみこ先生をお迎えして... 対談型講演会

ほんわか

約80名の保護者の方も参加



自分の中には
いろんな自分がある...

忙しい時は、ときどき
立ち止まって、生きている
幸せを感じて!

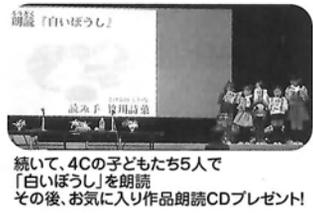


あまんきみこ先生

満州生まれで、中学2年の時に終戦を迎えられました。
京都府長岡京市にお住まいで、現在78才。
上品なユーモアに包まれた作品は、日本の風土や文化に根付いた情緒や親しみやすさがあり、「ちいちゃんのかげおくり」(3年)「白いぼうし」(4年)など教科書教材としてたくさん使われています。



4Cお気に入りファンタジー発表



- | | | | | | | |
|---------|-----------|----------|-------|--------|-----|-------|
| 山ねこおごころ | すずかけ通り3丁目 | ほん日は雪天なり | くましんし | 春のお宮さん | 雲の花 | 白いぼうし |
| 7位 | 6位 | 5位 | 4位 | 3位 | 2位 | 1位 |



Q1.なぜ物語を書こうと思ったのですか?
A:小さい時から話を読んだり書いたりするのが大好きで、好きなことをやり続けることで、物語を書くようになった。

Q2.何才から書きはじめたのですか?
A:自分の子どもが大きくなってから... 37才の時です。



あまんきみこ先生から子どもたちへメッセージ

「みんな、うんと楽しくて、うんとうれしくて、すばらしいと思うことがあるでしょ。そんな時は、いっぱい笑ったらいいよ。だけど、まわりで笑えないお友達もいるかもしれない。ってことをちょっと心の中に入れておいてね。
うんと悲しくて、つらい時は、必ずあたたかい光があたることを信じていてね。」



「学校図書館活性化事業」では、ほかにも、「モンゴル国家一級演奏家のリポーさんの馬頭琴コンサート」「茂山 千五郎家の方々による狂言鑑賞」も行いました。子どもたちは「本物」に出会い、多くのことを感じ取りました。

特集 Action4・5は、和歌山大学教育学部附属小学校育友会 広報誌「ふぞく 第158号」より転載しました。平成21年度「毎日新聞PTA新聞コンクール優秀賞」を受賞しました。
 (特集編集担当：上野佳彦 梶本久子)

心に響いた😊 ほんまもんの音♪

サウンド

— 音楽の楽しさ、素晴らしさを知る —

11月24日、文化庁の「本物の舞台芸術体験事業」で大阪フィルハーモニー交響楽団の方々が附属小学校へ来て下さいました。
総勢70名のオーケストラの迫力ある演奏に圧巻されました。



特集担当
梶本久子 上野佳彦
(6年A組) (4年A組)



プログラム

ドヴォルザーク/スラヴ舞曲 第1番ハ長調 作品46-1
楽器紹介コーナー
【指揮者体験コーナー】
ベートーヴェン/交響曲 第5番「運命」第1楽章より
【演奏体験コーナー】
ビゼー/歌劇「カルメン」第1幕 前奏曲「闘牛士」より
校歌(全員合唱)
エルガー/行進曲「威風堂々」第1番 二長調 作品39-1
指揮とお話: 円光寺 雅彦
管弦楽: 大阪フィルハーモニー交響楽団

江田先生から



コンサートの鑑賞マナー(についてと歌の出だし遅れないようにポイントの確認)

楽しかった!

【楽器紹介】



木管楽器



金管楽器

ラジオ体操の曲を演奏



チューバ(大きいなあ!)

【指揮者体験】

懸命に夕夕と振り、指揮者の難しさとお面自さを味わいました。

またやってみたい♡

先生からは高村先生がチャレンジ!!



【打楽器体験】

大だいごとシンバルに挑戦しました。



【校歌斉唱】

プロのオーケストラの最高の演奏をバックに子どもたちも最高の歌声で応えることができました! 走り回ったりしました。😊



アンコール「天国と地獄」

演奏者と子どもたちの心が1つになって手拍子したり、リズムをとったり踊り出したり、走り回ったりしました。😊

From Editors

『質の高い学びを創る授業改革への挑戦～新学習指導要領を超えて』(佐藤学・和大附属小著/東洋館出版/2009.10)はおかげさまで教育一般書としてamazon.co.jpで、堂々7位を12月、2月と2度も記録しています。まだの方はぜひご一読ください。新しい教育へのヒントとなれば幸いです。

編集委員: 江田, 藤原, 三上, 上野, 梶本, 市川

和歌山大学教育学部附属小学校

〒640-8137 和歌山市吹上1丁目4番1号

TEL (073) 422-6105

FAX (073) 436-6470

URL <http://www.aes.wakayama-u.ac.jp>

E-mail fuzoku@center.wakayama-u.ac.jp